

# 図書館だより

能勢高図書館 2013. 12.

期末考査がようやく終わりました。それに合わせ図書館には新着図書がたくさん入りました。寒い季節がら、部屋の中で物語の世界にのめりこむもよし、知らない知識を自分のものにするもよし、本の世界に浸ってみてはいかがでしょうか。♪♪  
冬休みは、12月27日まで開いています。時間は9:00～15:00です。



## 新しく入ってきた本の案内と紹介



### 1類 哲学・倫理☆☆☆☆

『この世でいちばん大事なカネの話』西原理恵子 角川書店

※漫画や挿絵でお馴染みの西原理恵子の「カネ」にまつわる人生訓。実体験を基に「カネ」を稼ぐことの意義を説く。TVドラマ化もされた感動のベストセラー。

第一章 どん底で息をし、どん底で眠っていた。「カネ」がないって、つまりはそういうことだ。

第二章 自分で、「カネ」を稼ぐということは、自由を手に入れるということだった。

第三章 ギャンブル、為替、そして借金。「カネ」を失うことで見えてくるもの。

第四章 自分探しの迷路は「カネ」という視点を持てばぶっちぎれる。

第五章 外に出ていくこと。「カネ」の向こう側へいこうとすること。

『孔子 論語 (100分 de 名著ブック)』佐久協 NHK出版

『アラン 幸福論 (100分 de 名著ブック)』合田正人 NHK出版

『先生が教えてくれた倫理』矢倉芳則 清水書院

※倫理の教師が25年の教師生活で生徒に伝えてきたことがらをまとめた。どんな人間になりたいか、何にあこがれ、何を目指すか、誰を友とし、誰を愛するか、それを考えるための本。

### 2類 旅行記☆

『マイナス50℃の世界』米原万里 角川学術出版

※200年前にシベリアに漂着した日本人の足跡をたどって、1984～1985年にTBS取材班が酷寒のシベリアを横断した。その十五年後、改めて訪れてみると・・・



### 2類 日本史☆☆☆☆

『ポツダム宣言と軍国日本』古川隆久 吉川弘文館

『箱館戦争と榎本武揚』樋口雄彦 吉川弘文館

『小田原合戦と北条氏』黒田基樹 吉川弘文館

『承久の乱と後鳥羽院』関幸彦 吉川弘文館

※四冊ともに敗者の歴史という観点から著されたもの。最新の研究成果を駆使して敗因を分析し、そこから得た教訓から学ぶ本。

### 3類 法律・社会・仕事☆☆☆☆☆

『高校生からわかる日本国憲法の論点』伊藤真 トランスビュー

※憲法改正論議がメディアをにぎわしている今、憲法に関わる必要かつ基本的な常識を説くことで、自分自身の意見や考えを持ってもらうきっかけになることをねらった本。

『性犯罪報道 いま見つめるべき現実』読売新聞 中央公論新社

『働くための「話す・聞く」コミュニケーションカッテ』

上田明美 ぺりかん社

『社会起業家になるには』簗智優子 ぺりかん社

『絵本作家になるには』小野明ほか ぺりかん社

### 3類 暦・風俗・文化☆☆

『日本の七十二侯を楽しむ 旧暦のある暮らし』白井明大 東邦出版

※日本には、二十四の節気と七十二もの季節があるという。めぐりくる季節や自然を楽しむ、暮らしの歳時記。たとえば、立冬。立冬とは、「冬の気配が山にも里にも感じられてくることのこと、木々の葉が落ち、冷たい風が吹き、冬枯れの様子が目立ってくること」のように一つ一つの解説も丁寧にされた本。

『FASHION世界服飾大図鑑』深井晃子監修 河出書房新社

### 4類 昆虫☆☆

『蝶々はなぜ菜の花に止まるのか』稲垣栄洋 角川学術出版

『わが家の虫図鑑』近藤繁生 トンボ出版

※自分の家の中や家の周りにいる虫を収録。ハネの有る無し、あるならその枚数、脚の有る無し、あるならその本数ごとに詳しく解説。虫の特徴や説明のコラムも多く、写真も満載で飽きさせない本。

